

市議会が「直線化」の 釧路・鶴間秀 「JR高架」は大

補正予算案を否決！ 典市政の 丈夫か



Webによる形式的な市民アンケート調査で民意を問い、その結果に基づいてJR高架事業で「直線化」の補正予算案を提出した釧路・鶴間秀典市長に対し、市議会は「ノー」の回答を突き付けた。

その一方で北大通商店街の関係者による「直線化」反対の署名活動も。

「L字型」か「直線化」で揺れる鶴間市政の「来し方」を紐解き、「行く末」を占う――。

(本誌取材班)

「234人」が市民の声？

「釧路市の人口15万人の中でアンケートに回答したのが、たったの234人。そんな少数で直線化を決定されること自体、おかしい話です」

こう話すのは、北大通魔女クラブの羽生幸子会長（「サロンドイフ」社長）だ。

「L字型」か「直線化」か――。

JR釧路駅の高架問題で蝦名大也前市長が推進してきた「L字型」は、駅の南北に接続する道路（「北大通」と「共栄新橋大通」）を歩行者専用道路とバス専用道路の「L字型」で整備するもの。

一方、鶴間市長が唱える「直線化」は、駅の南北を一般自動車と歩行者が通行できる直線の道路で整備するものだ。

昨年10月に行われた市長選で鶴間氏が蝦名氏を破って当選したため、蝦名氏が推進していた「L字型」が白紙撤回され、鶴間氏が新たに「直線化」を打ち出したため、マチを二分する議論になっているのだ。

市は今年7月7日から8月3日までの期間、市民を対象にアンケートを実施。内容は「L字型」のA案、「直線化」のB案、「直線化」(4車線)のC案を提示し、どの案を支持するか、というものだ(図)。



▲鶴間秀典市長

その結果、234件の回答があり、A案が26%(60人)、B案が51%(119人)、C案が7%(16人)。鶴間市長はこの結果を踏まえ、9月1日の定例記者会見で「(直線化に)一定の理解と支持を得られた」と語った。

先の羽生氏の発言は、鶴間氏のこの会見を批判したものだ。

今回のアンケート調査に対する批判は、回答者の人数だけではない。アンケートの実施方法やその内容について「B案賛成に誘導するものではないか」と



▲蝦名大也前市長

の声が数多く聞かれるのだ。

ある釧路の経済人は、「市政懇談会や市民説明会の参加者に記入してもらった体裁をとってはいるものの、多くはインターネットによる意見募集で民意を反映しているとは言えない。アンケートには、あらかじめ各案に『○』『△』『×』の評価が表記されているが、『○』や『△』が多い案に賛成するのが当たり前で、この調査には作偽が感じられる」と、指摘する。

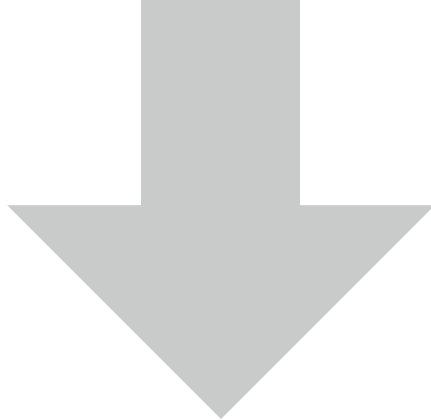
回答234件のうち、

Webでの回答が187件と8割を占めている。Webを使えない高齢者などは調査の埒外に置かれている、と言われても仕方がないだろう。

「『○』などの評価について市は、「都心部まちづくり推進室と有識者との間で検討して決めた」(石嶋龍也都心部まちづくり推進室長)という。

また本誌が取材する中で「アンケートの結果が新聞報道されて初めてアンケート調査があったことを知った」という声が多かった。ちなみに、市は広報誌を全戸に配布している。

「アンケートの実施については、せめて広報



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)